

日语作文竞赛

过去名作公开！

如本期《技能实习信息》中的通知所示，今年也将从4月1日起开始外国人技能实习生・研修生日语作文竞赛的作品征集。今年的征集是第24届，这次介绍第20届最优秀奖获奖作品中的一篇作文《再来日》。这篇作文描写了东日本大地震发生时身临其境的感受。在东日本大地震中因受巨大地震和海啸等侵袭，以东北地区为中心的太平洋沿岸地区遭受了严重的损失，到今年3月11日已经是发生后的第5年了，但现在受灾地区的重建还在继续。希望诸位也通过这次的地震灾害再一次思考讨论关于重建支援和防灾等事项。

※作文是按照技能实习生所书写的日语刊登的。假名注解由编辑部添加。

[2011年最优秀奖]

《再来日》 徐 丽敏

2012年2月10日，我再一次回到日本继续技能实习。实习的公司在职城县石卷市。去年3月11日，我所在的实习公司遭受了巨大地震和海啸的侵袭。那个时候我们还在工作。突然而来的强烈晃动使我慌张起来。大家也都惊慌失措。那时的我就像刚睡醒的孩子一样想着“妈妈在哪里？爸爸在哪里？想要爸爸妈妈！好恐怖，好恐怖”，现在想来还能深深感到那种恐惧。之后又发生了好几次余震。大家一起跑到了工厂外后稍微安心了点。但当时谁都没有想到更恐怖的事情正慢慢向我们靠近。大家都担心自己的家和家人于是都回去了。我和朋友及办事员一起坐社长的车回宿舍。途中忽然传来从没有听到过的砰地一声巨响，之后巨大的水团向我们所坐的车袭来，是大海啸。我吓得发不出声音，车被海啸的水势冲走，这时车的前方出现了栅栏，好像感到车倾斜后翻了个个。自己的人生就要在此终

日本語作文コンクール

過去の名作公開！

今号の(技能実習情報)でお知らせした通り、今年も4月1日から外国人技能実習生・研修生日本語作文コンクールの募集が始まります。今年の募集は第24回となりますが、今回は第20回最優秀賞作品の中から「再来日」という作文をご紹介します。この作文では東日本大震災のことが臨場感を持って書かれています。東日本大震災では巨大地震による津波等により、東北地方を中心とする太平洋沿岸部が甚大な被害を受け、今年3月11日で発生から5年となりますが、今も被災地では復興が続いています。皆さんもこの震災を通して復興支援や防災などについて、今一度考えたり話し合ったりしてほしいと思います。※作文は技能実習生が書いた通りの日本語で掲載しています。

振り仮名は編集部で付けました。

[2011年最優秀賞]

「再来日」徐 丽敏

2012年2月10日 私は日本にもう一度実習に戻りました。2011年3月11日、私は実習先の会社で巨大地震そして大津波に遭いました。その時私たちはまだ仕事です。突然の大きな揺れで私は慌てました。みんなも慌てふためいていました。あの時私は、眼りから覚めたばかりの子供みたいに「お母さんどこ？お父さんどこ？お母さんお父さん会いたい！怖い、怖いよ」って...今考えてもとても恐怖を感じます。その後余震が何度もあった。みんなで工場の外に出てちょっと安心した。でももっと怖いことがゆっくり私達に近づいてきていること誰も全然思っていなかった。みんなは自分の家、家族が心配なので帰りました。私は、友達と事務員さんと社長が運転する車で寮に戻りました。その途中いままでも聞いたことのないゴーツというすごい音がしてその後大きな

結了吧，我已经做好了死的准备。想起故乡的家人泪水在眼眶里打转，正想着永别了的时候，奇迹发生了。栅栏坏掉，车恢复了平衡，又开始被浊流冲着走。我在心里祈祷着有谁能来帮助我们。但这是无法实现的希望。之后海啸的水势更强了，最终水涌进了车里。这时我感到老天已经决定了我的生死，绝对逃不了了。但是奇迹又发生了。突然车撞上了什么东西后停了下来。是撞到了某户人家一楼的屋顶。因为这个冲击车后面的玻璃碎了，可以出去了。当时的情况已经记不太清了，之后我们4个人齐心协力拼命地从车里逃脱了出来。这个时候第一次看到了生的希望。之后的一个晚上，我们抵着严寒在第二天到了社长家里，这才放下心来。我觉得这是我这辈子经历的最恐怖的事。甚至有做好了死的准备。但是好几次都发生了奇迹。这绝非偶然，我坚信这是故乡的家人和祖先在守护我。然后现在我又重新开始了技能实习。如果是2年前的我是决不会再回来的。来日本以后，我认识了社长，专务，社长太太等很多人，他们帮助我鼓励我，使我能够充实地生活。我深深感受到了日本人的亲切、关怀，以及齐心协力共同完成某件事的凝聚力。去年地震发生时也是这样，无论是谁，即使是在这么危险的时候，也会帮助照顾有困难的人，比起自己的事情考虑得更多的是周围人的情况，这样的日本人我觉得非常了不起，有这样的心情，日本一定会复兴起来。

水の塊が私達が乗っている車に襲いかかってきました
おおつなみ わたし こえ うしな つなみ いきお くるま なが
大津波です。私はびっくりし声を失い、津波の勢いで車が流
されて、その時車の前に柵が現れ車が傾きひっくり返えるよ
うな感じでした。私は自分の人生がここで終わりだたと死を
かくご かくご こきょう かぞく おも だ め なみだ
覚悟しました。故郷の家族のことが思い出され目には涙が
ぐるぐるまわ ぐるぐる まわ おも とき きせき お
グルグルと回り、さよならって思ったその時、奇跡が起きまし
た。柵が壊れ、車が平衡を取戻し、また濁流に流され始めまし
た。だれ たす たす くだ こころ いの むり
誰か助けてほしい助けて下さいと心で祈りました。無理な
きぼう 希望でした。その後津波は勢いを増して、とうとう車の中にみず
はい が入ってきました。この時私は、神様はもう私の死を決めて
しまつて絶対に逃げることはできなと感じました。でもまた
きせき おこ とつぜんくるま なに と
奇跡が起ったのです。突然車が何かにぶつかり止まった。どこ
かの家の一階の屋根にぶつかつたんです。その衝撃で車の後ろ
がらす わ そと で かのう の ガラスが割れ外に出ることが可能になりました。よく覚えて
いませんが、その後は夢中で4人で力を合わせ車から脱出する
ことができました。この時初めて生きる希望を見ました。その
ごひとばん さむ た よくじつしゃちよう いえ い
後一晩、寒さに耐え翌日社長の家に行くことができ、ほつとし
たのを覚えています。私は思います。これまでの生涯で一番怖
たいけん し かくご とき きせき なんど
い体験でした。死を覚悟した時もありました。でも奇跡が何度も
おこりました。これは偶然ではない、これは故郷の家族そして
せんぞ わたし まも かくしん いま わたし じっしゅう
先祖が私を守ってくれたと確信しました。そして今、私は実習
さいかい さいかい ねんまえ じぶん ぜつたい もど
を再開しています。2年前の自分なら絶対に戻ってはいきませんで
した。日本に来て以来、社長さん、専務さん、奥さんはじめ、
ひとたち で あ たす はげ じゅうじつ せいかつ
たくさんの人達と出会い、助けられ、励まされ充実した生活を
おく おく わたし にっぽんじん やさ おも
送ることができました。私は、日本人の優しさ、思いやり、そ
きょうりよく なに な と だんけつりよく かんめい う
して協力して何かを成し遂げるといふ団結力に感銘を受けた
のです。昨年の震災の時もそうです誰もが大変な時そんな時で
こま ひと たす ひと じぶんてき まわ ひと
も困っている人を助けいたわり、自分的ことよりも周りの人の
かんが かんが にっぽんじん す ぼ おも
ことを考えることができる日本人、素晴らしいと思います、こ
きも きも にっぽん かなら ふつこう わたし おも
の気持ちがあれば日本は必ず復興できると私は思います。